

大神山公園マネジメントプラン

大神山公園の管理運営、整備等の取組方針

平成27年5月

東京都建設局

目次

はじめに	82-3
I 大神山公園の基礎的事項	82-4
1 都市計画等	
2 過去の取組の成果等	
3 社会状況等の変化	
II 大神山公園の開園概要	82-6
1 開園区域の概要	
2 利用状況等	
III 大神山公園の目標と取組方針	
1 むこう10年間を見据えた主な目標	82-7
2 取組方針	82-8
(1) ゾーン別基本方針（ゾーン別基本方針図共）	
(2) 維持管理の取組方針	
(3) 運営管理の取組方針	
(4) 安全・安心な公園への取組について	
(5) 改修・再整備の取組について	
IV 図面・写真	82-15
現況平面図	
周辺土地利用図（空中写真）	
周辺土地利用図（地図）	
大神山公園の現況写真	
<資料編>	82-17
資料1 大神山公園に関する資料	



はじめに

「大神山公園マネジメントプラン」は、平成 27 年 3 月に改定された「パークマネジメントマスタープラン」における新たな東京の公園づくりの理念や目標、本公園の基本理念や時代の要請、ならびに過去 8 年間の本公園における公園づくりの取組結果とその評価を踏まえ、今後新たな 10 年間を見据えた公園づくりに必要な目標を設定し、当該目標を実現するための計画・整備・管理に係る基本的な取組方針を定めたものです。

また、本マネジメントプランは固定的なものではなく、目標や計画は継続的に見直し・改善を図るとともに、社会経済情勢の変化等への対応が必要となった場合には、柔軟に必要な事項等について再検討を行い、適宜見直し改善を行っていくものです。

I 大神山公園の基礎的事項

1 都市計画等

(1) 都市計画の概要

- ・名称 小笠原都市計画第7・5・1号大神山公園
- ・位置 小笠原村父島字東町、字西町、字清瀬及び字宮之浜道各地内
- ・面積 17.4ha
- ・種別 特殊公園（風致）
- ・決定告示 (当初) 昭和51年10月12日 東京都告示第981号 14.2ha
(最終) 昭和63年3月10日 東京都告示第242号 17.4ha

(2) 大神山公園の基本的な性格・役割

大神山公園は東京から南へ1,000kmに位置し、30余りの島々から構成される小笠原諸島の父島に位置する風致公園である。島しょ部における唯一の都市公園である。

小笠原諸島の大部分は小笠原国立公園に指定されているが、海底火山の噴火による島の形成以来、これまで大陸と繋がったことのない海洋島のため、島にたどり着いた生物が独自に進化を遂げ特異な生態系を有していることが評価され、2011年ユネスコの世界自然遺産に登録された。

公園は、丘陵地の大神山地区と二見港に面した平坦地である大村中央地区に分かれている。大神山地区は北部の丘陵地に位置し、園内の展望地からは二見港をはじめ兄島や大海原を一望することができる。また園内において小笠原固有の植物を観察することができる。

一方、大村中央地区は市街地に近接するほか、海水浴で賑わう大村海岸に面しており、小笠原ビジターセンターやお祭り広場などの施設がある。地域の方々の憩いの場として、また、サマーフェスティバル等のイベントの場として利用され、地域の交流活動の拠点として親しまれている。ビジターセンターでは、国内外の来訪者に小笠原諸島の成り立ちや、貴重な自然の魅力、人々が育んできた歴史や文化を紹介している。さらに、自然遺産の保護・保全、小笠原に特有の動植物等の自然探勝、自然環境保護の普及啓発についての情報の発信基地としての重要な役割を担っている。

2 過去の取組の成果等

「大神山公園マネジメントプラン(H18)」における重点目標に係る過去8年間の取組およびその成果と課題は、以下のとおりである。

○自然体験活動、環境学習の拠点としての公園の活用

修学旅行の高校生を対象とした職場体験・環境学習プログラムの実施により、自然の大切さを伝える普及啓発が行われた。

○その他の目標

アカガシラカラスバト、アオウミガメなど希少動物の保護、オオハマボスなど外来種の植栽、外来種の除去による在来種の育成促進により、動植物の生息・生育環境の保全がなされた。

3 社会状況等の変化

(1) 社会経済情勢

- ①2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の東京開催決定
- ②平成23年3月の東日本大震災の発生
- ③生物多様性条約締結国会議の平成22年日本開催など、地球環境への意識の高まり
- ④少子高齢化の進行による利用形態の変化

(2) 関連する行政計画等

- ①東京都公園審議会答申（昭和57年8月）
- ②パークマネジメントマスタープラン（平成27年3月）
- ③緑の新戦略ガイドライン（平成18年1月）
- ④東京都長期ビジョン（平成26年12月）
- ⑤東京都景観計画（平成23年4月）
- ⑥小笠原（父島・母島）における景観に配慮した公共施設整備指針（平成27年3月）

Ⅱ 大神山公園の開園概要

1 開園区域の概要

(1) 開園の概要

名 称 都立大神山公園（おおがみやまこうえん）
開 園 日 昭和 56 年 4 月 30 日
開園面積 153,125.94 m²（平成 26 年 10 月 1 日現在）
公園種別 特殊公園・風致
所 在 地 小笠原村父島
アクセス 東京港竹芝客船ターミナルから小笠原父島まで「おがさわら丸」

(2) 主な公園施設

山頂展望台、パノラマ展望台、冒険遊戯広場、お祭り広場、児童遊戯広場、コミュニティー広場、小笠原ビジターセンター（都環境局所管）

2 利用状況等

(1) 利用概況

東京から太平洋を 1,000km 南下、小笠原諸島の父島にあり、自然の景観に恵まれた公園である。島の玄関口、二見港から近い。

魅惑的なブルーの海に臨むこの公園は、丘陵地の大神山地区と二見港に面した平坦地である大村中央地区に分かれている。

(2) 利用者動向（推計値）

25年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
年間総数 (人)	24,581	32,004	41,275	46,863	59,563	24,841
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
392,279	24,308	29,528	29,312	20,384	24,638	32,982

(3) 主な催し物開催状況（平成 25 年度実績は資料編参照）

「大神山公園ガイドツアー（小笠原の自然を紹介）」などが行なわれた。

Ⅲ 大神山公園の目標と取組方針

1 むこう10年間を見据えた主な目標

本公園の基本理念、および社会状況の変化等の内容を踏まえ、むこう10年間を見据えた取組の中で本公園が目指す主な目標を次のように定める。

なお、本目標及び各方針の実現に向けた具体の数値目標については、事業計画等の作成時に状況に応じそれぞれ適切に設定し、マネジメントサイクルのなかで見直し等行っていく。また、【 】内には、関連するパークマネジメントマスタープランのプロジェクト名を記載した。

■目標1：多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園

【プロジェクト7 都立公園の生物多様性向上プロジェクト】

【プロジェクト8 自然とのふれあいプロジェクト】

都立公園が良好な生物生息・生育空間として機能するために、公園内の動植物の保全・育成活動を充実させていく。

また、様々な体験を通して利用者に自然の大切さを体感してもらうため、この公園独自の自然的環境を利用した取組を行っていく。

◎主な取組確認項目：生物の保全・育成の取組、自然体験等の取組

2 取組方針

本公園が目指すべき主な目標を実現するため、利用者の満足度向上を念頭に、管理や整備等にかかわる取組方針について、各項目の主旨はもとより安全・安心や環境への取組み等にも考慮したうえで次のとおり定める。

(1) ゾーン別基本方針

管理運営や改修整備等を重点的・効率的に実施していくために、園内の各ゾーンについて現況等も踏まえ機能・目的・自然的環境等により類型化し、ゾーン毎の基本方針を定め、各ゾーンの特徴を際立たせて効果的な予算の執行等を図る上での基本的な方針とする。

なお、ゾーン別基本方針は、原則として開園区域を対象に定めるものとし、新規開園区域があった場合は、整備内容等を踏まえ、必要に応じ追記等を行う。

A:多目的広場ゾーン

- ・コミュニティー広場、お祭り広場などのあるゾーン（大村中央地区）
地域の憩いの場、遊びの場、イベントの場などとして安全・快適に利用できるように対応していく。

B:遊具広場ゾーン

- ・冒険遊戯広場のあるゾーン（大神山地区）
子どもたちが安全、快適に遊べるよう対応していく。

E:休息・散策ゾーン

- ・休憩広場などのあるゾーン（大神山地区）
園内の植栽や景観に配慮し、利用者が散策を楽しんだり、広場で快適にすごせるよう対応していく。

H:展示・学習ゾーン

- ・小笠原ビジターセンターのあるゾーン
小笠原の自然の魅力を紹介する情報発信拠点としての機能を十分発揮させるエリアとしてとらえる。公園とビジターセンター双方が連携を図り、より質の高いサービスの提供を図る。

K:環境共生・保全ゾーン

- ・小笠原固有の動植物が生息・生育するゾーン（大神山地区）
小笠原在来の動植物の生息・生育の場の保全を図るとともに、観察などの利用にも対応していく。
- ・山頂展望台やパノラマ展望台などのあるゾーン（大神山地区）
大神山地区の斜面を高台の展望台まで登っていく園路を散策しながら、小笠原の特色ある動植物を観察したり、展望台や休憩所から美しい海を一望できる場として対応していく。

L:水辺・親水ゾーン

- ・大村海岸のあるゾーン。
街から近い海岸として海水浴等安全に楽しめるように対応していく。アオウミガメの産卵などについても特段の配慮をする。

N:管理ヤードゾーン

- ・駐車場などのあるゾーン。
車だけでなく一般利用者の安全にも配慮するほか、管理ヤードとして、適切な

管理をしていく。

Q：外縁部ゾーン

- ・ 民有地等や公道に接する公園外縁部

本公園の外縁部で、区画道路等を介して住宅地等に面する所では、見通しを確保し、住宅地等に対する良好な景観の提供を図るよう留意する。また、住宅地等と直接境界を接する所では景観面のほか、落葉や落枝、越流水などの直接的な悪影響等を及ぼさないよう対応していく。

【ゾーンについて】

公園別のマネジメントプランでは、都立公園共通のゾーン区分を下表のように定めた。
したがって、該当するゾーンがない場合には、そのゾーンの記載がない。

記号	区分	主な特性・機能
A	多目的広場ゾーン	多目的広場、草地広場、芝生広場、運動広場など、多目的な利用ができるゾーン。（バーベキュー広場、キャンプ広場、デイキャンプ広場などを含む。）
B	遊具広場ゾーン	児童遊具、健康遊具など、各種の遊具を中心としたゾーン。
C	イベント広場ゾーン	イベント利用に適した広場や施設などがあるゾーン。
D	入口広場ゾーン	シンボリックな入口広場として集散の場となるゾーン。
E	休息・散策ゾーン	散歩道、遊歩道、プロムナードなど、休息や散策の場となるゾーン。
F	尾根道散策ゾーン	丘陵地の尾根道など、散策の場となるゾーン。
G	スポーツゾーン	野球場、テニスコート、サッカー場、各種競技場、プール、体育館など、各種のスポーツの場となるゾーン。
H	展示・学習ゾーン	美術館、資料館、遺跡、城址など、各種の教養の場となるゾーン。
I	修景ゾーン	修景池、展望広場などの修景施設、または、草花、花壇、桜並木などの修景機能があるゾーン。
J	樹林ゾーン	外周部の樹林など、遮蔽機能等があるゾーン。
K	環境共生・保全ゾーン	多様な動植物が生息している豊かな自然環境を形成しているゾーン。
L	水辺・親水ゾーン	流れ、池、じゃぶじゃぶ池など、水に親しむことができるゾーン。
M	駐車場ゾーン	駐車場があるゾーン。
N	管理ヤードゾーン	管理ヤードとして利用するゾーン。
O	宿泊ゾーン	宿泊を目的とした施設があるゾーン。
P	植物園ゾーン	植物園（有料）として運営しているゾーン。
	(庭園関係)	「大泉水景観ゾーン」「芝生広場景観ゾーン」「富士山景観ゾーン」「山中の景観ゾーン」「田園景観ゾーン」など、各庭園に各種のゾーンがある。
Q	外縁部ゾーン	民有地や公道等に接する公園外縁部となるゾーン。

(2) 維持管理の取組方針

維持管理の取組方針については、すべての公園・緑地に共通する基本的考え方として基本事項を示し、当該公園・緑地の維持管理において、特に留意すべき事項を留意事項として提示する。

1) 維持管理の基本事項

都立公園は、自然環境保全、防災、景観形成、レクリエーションなど多くの機能を有しており、首都東京の風格を高め、安全で快適な都民生活に不可欠な都市施設である。こうした機能を発揮させるためには、適正な維持管理により、公園施設の機能確保がかかせない。

そのためには、公園の中心的・特徴的要素となる植物をはじめ、その基盤となる土や水、そこに生息する動植物なども含め、総体として守り育てなければならない。あわせて、公園利用者の安全確保のため、日常的な点検等通じて、樹木や施設の異常を早期に発見し、速やかに対応していくことで安心して利用してもらおうとともに、公園を清潔に保ち、快適に利用してもらわなければならない。また、防災トイレなどの防災関連施設は、発災時に円滑に使用できるよう、日頃から機能確保に努めていく。

2) 本公園の維持管理における留意事項

①植物の維持管理

大神山地区については、環境共生や保全を念頭にモクマオウなどの外来種を除去し、テリハハマボウ、オオハマボウ、ムニンヒメツバキ、タコノキなど小笠原の特色ある樹種植生を保全していく。

(3) 運営管理の取組方針

運営管理の取組方針については、すべての公園・緑地に共通する基本的考え方として基本事項を示し、当該公園・緑地の運営管理において、特に留意すべき事項を留意事項として提示する。

1) 運営管理の基本事項

① 基本的な事項

都民のライフスタイルの多様化や高度化、少子高齢化の進展などにより、新たな時代のニーズに応じた公園の管理運営が求められている。公園やその周辺地域の特性を踏まえ、地域団体などと連携し、環境の変化や新たなニーズに応えるための運営管理を行う。

② 公園の適正な管理

都市公園法や東京都立公園条例等に基づき、公の施設として公平・公正な取扱いをするとともに、公園利用者が安全かつ快適に公園を利用できるよう、適正な管理を行う。

③ 利用促進

公園利用者から寄せられる様々な要望や苦情等を通じてニーズを的確に把握し、幅広い利用者層や利用目的に応じた質の高いサービスを継続的に提供するとともに、公園の魅力を発信し、公園利用の促進を図る。

2) 本公園の運営管理における留意事項

①自然環境の保全と活用

小笠原ビジターセンターとの連携により、動植物の生息・生育環境の場としての価値を踏まえて、自然環境の保全を図るという視点を常に意識し、あわせて緑地のレクリエーション機能等の向上も図っていく。

(4) 安全・安心な公園への取組について

地震・台風・大雨などによる被害や感染症等の発生、落枝・倒木や公園施設の老朽化に起因する事故の発生に際し、公園の利用者や周辺住民が安心して公園を利用できるよう、次の通り対応していく。

1) 地震災害

- ・東京都地域防災計画など、既定計画における役割の確認
- ・巡回点検・応急対応等のマニュアルの理解
- ・発災時を想定した参集訓練や通信訓練等の実施

2) 気象災害（台風、大雨、積雪等）

- ・巡回点検・応急対応等のマニュアルの理解
- ・情報連絡体制の構築
- ・被害軽減のための事前処置の準備

3) 蚊媒介感染症など

- ・関係部署と連携しつつ迅速・適切に対応

4) 落枝・倒木

- ・日常的巡回時の異常把握と応急処置
- ・倒木等の恐れのある樹木の定期点検
- ・計画的な樹木手入れ等の実施

5) 施設の損壊等

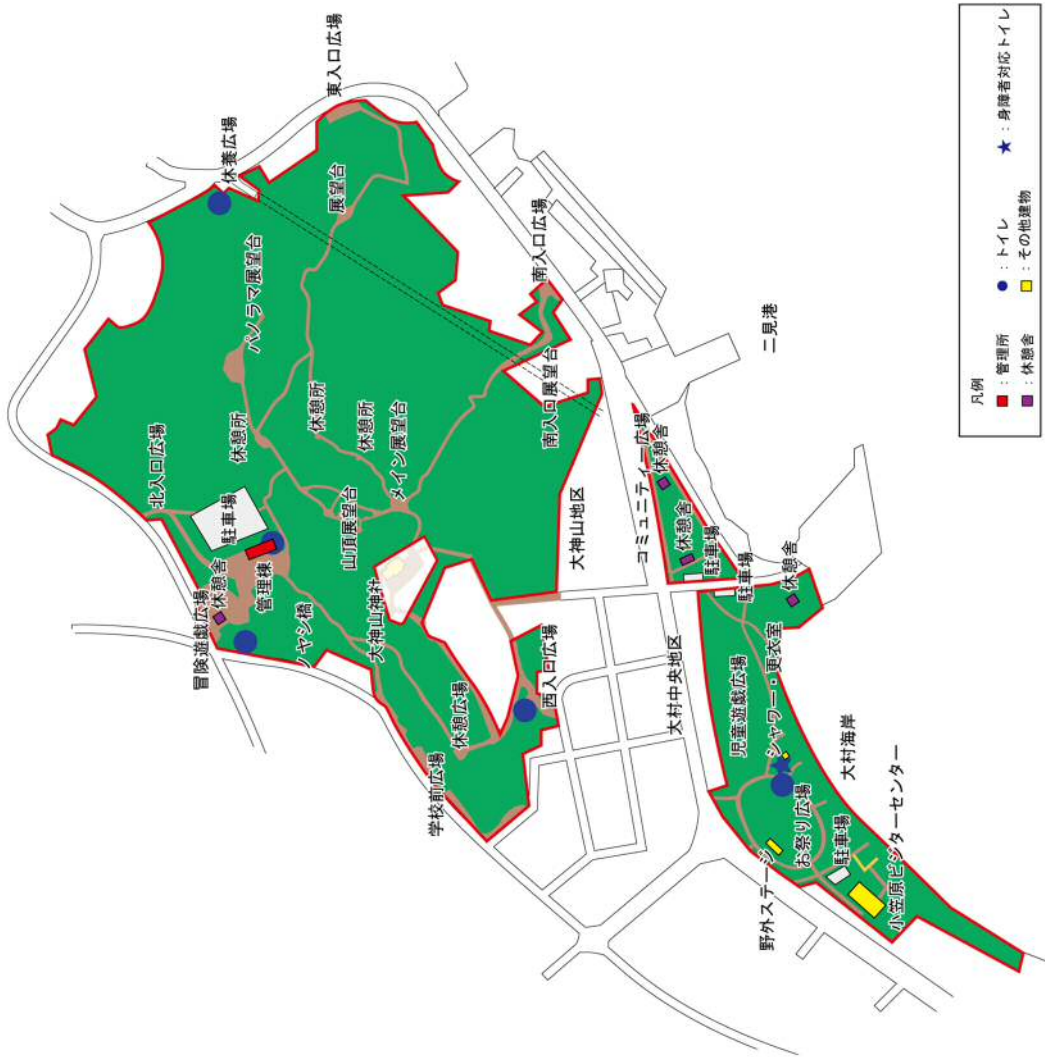
- ・日常的巡回時の異常把握と応急処置
- ・公園利用者とのコミュニケーションによる不具合の把握
- ・計画的な補修や取り換え等の実施

(5) 改修・再整備の取組について

公園基盤の改修・再整備については、本園の性格・役割や目標に照らし、長期的な視点に立って計画的に改修・再整備を図ることを基本とし、改修・再整備の対象となる施設の現況特性等に応じ、施設ごとに方針を定めて行うものとする。

IV 図面・写真

現況平面図 大神山公園



大神山公園の現況写真

①小笠原ビジターセンター



⑤コミュニティ広場



②お祭り広場



⑥パノラマ展望台付近休憩所



③大村海岸



⑦メイン展望台



④児童遊戯広場



⑧冒険遊戯広場



<資料編>

資料1 大神山公園に関する資料

(1) 公園の沿革

昭和44年12月 1969年	小笠原諸島復興特別措置法公布施行。
昭和45年7月 1970年	同法に基づく「小笠原諸島復興計画」における土地利用計画において父島集落計画に公園地区（大神山地地区、大村地区）を設定。
昭和49年4月 1974年	父島及び母島の全域を都市計画区域に指定。
昭和51年10月 1976年	東京都告示第981号により、都市計画決定。（14.2ha） （大神山地区）
昭和56年3月 1981年	東京都告示第202号により、都市計画決定。（16.8ha） （大村中央地区）
昭和56年4月 1981年	東京都告示第467号により、開園。（12.3ha） （大神山地区）
昭和63年1月 1988年	小笠原ビジターセンター開館記念式典。
昭和63年3月 1988年	東京都告示第242号により、都市計画決定。（17.4ha）
平成10年6月 1998年	東京都告示第621号により、追加開園。（15.3ha）
平成14年4月 2002年	小笠原ビジターセンター東京都環境局の所管となる。
平成23年 2011年	小笠原諸島が、ユネスコの世界自然遺産に登録される。

(2) 公園の自然・社会環境

1) 自然環境

- ・小笠原諸島は、「東洋のガラパゴス」とも呼ばれ、豊かな固有の動植物が生息・生育しており、本公園でもタコノキ、オガサワラビロウ、ムニンヒメツバキ等の固有種がある。
- ・本公園は、北部の丘陵地に位置する大神山地区と、南部の二見港に面した平坦地である大村中央地区に分かれている。
- ・美しい蒼い海に面する大村中央地区の海岸線は、ウミガメの産卵場所であり、5～8月にかけて島の風物詩でもあるウミガメの産卵風景がみられる。
- ・険しい地形の大神山地区では、オオハマボウやテリハハマボウが1年中黄色い花を咲かせており、春にはタチテンノウメ、夏にはムニンヒメツバキなど、四季折々の花が咲く。
- ・また、大神山地区の高台からは、蒼い海が一望でき、観光客がその見事な眺めを求めて訪れる。夏の夜空には、国の天然記念物であり、小笠原の象徴ともいえるオガサワラオオコウモリが飛来し、木々の枝にぶら下がり、そのユニークな姿を観察することができる。

2) 社会的環境

- ・東京から南へ1,000 kmの太平洋上に位置する小笠原諸島（父島）へは、唯一のアクセス手段である「おがさわら丸」（定期船）が週に1便程度運航しており、おお

よそ 26 時間という長い時間を経て到着する。

- ・小笠原諸島は、日本の南海に散在する大小 30 余の島々から成り立っている。亜熱帯に属し、気温の年較差が少ない小笠原は、世界でも有数の透明度の高さを誇る海に囲まれ、独自の生態系の動植物を有する自然の宝庫である。
- ・本公園は父島二見港岸壁のすぐ北側に位置し、周囲を整備された道路（都道 240 号線および村道大神宮線）によって囲まれており、標高 90.2m、面積 12.5ha の一塊の丘陵である。
- ・公園の外周道路は、島の主要な幹線道路（都道 240 号線）であり、大村中央地区と大神山地区を分けている。また、公園は観光船発着所から島中心部へ向かう動線沿いに位置し、観光客を最初に出迎える広場となっている。
- ・公園への主要進入路は、都道とそこから分岐する村道大神宮線である。この村道は、大神山地区の観光スポットである大神山神社へと通じている。

（3）園内のトピックス

①大神山地区

玄関口である二見栈橋のすぐ後ろに位置する大神山の山頂の展望地からは、二見港や大村、清瀬、奥村の集落を始め、野羊山、洲崎、夜明山、旭山、三日月山、兄島を見渡すことができる。また、園路を探勝すると、小笠原固有の植物を観察することができる。

②大村中央地区

海水浴で賑わう大村海岸に面し、小笠原ビジターセンター、お祭り広場等がある。白い砂浜では、毎年元旦に海開きが行われる。

（4）利用状況等データ

1) 公園占用の状況

(件)

項目	25年度	24年度	23年度	22年度	21年度
写真撮影	0	0	0	0	0
映画等の撮影	0	0	0	0	0
その他	1	16	13	11	5

2) 主な催し物（平成 25 年度実施分）

①指定管理者による催し

種別	No.	事業名	実施期間	参加人数(人)
イベント	1	大神山公園ガイドツアー		—

②指定管理者以外による催し

種別	No.	事業名	実施期間	参加人数(人)
その他	1	父島返還祭	6月	—
	2	サマーフェスティバル	8月	—